

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU NETWORK NASU CHARTERED 1995



那須ワイズメンズクラブ

2015~2016年度 No.189

10月 月報

那須クラブ会長 主題
拓こう 築こう ワイズの世界



強調月間：EMC/E(クラブ拡張)
YES(新クラブ設立の基金)



9月例会(塩谷キャンプ場下見・懇親会) 9月26日 於：原田ワイズ宅

2015~2016年度 主題
国際会長：(IP) Wichian Boonmapajorn (タイ)
「信念のあるミッション」
アジア地域会長：(AP) Edward K.W. Ong (シンガポール)
「愛をもって奉仕をしよう」
東日本区理事：(RD) 渡辺 隆 (甲府)
「原点に立って、未来へステップ」
北東部長：中川 典幸 (仙台)
「今と原点を融合して未来へ」 - 楽しく改革・笑って行動 -

クラブ役員 事務局
会長：田村 修也
副会長：村田 榮
河野 順子
書記：荒井 浩元
会計：鈴木 保江
担当主事：荒井 浩元
プリテン：田村・村田

9月例会データー (出席率：83%)
在籍者 6名
例会出席者 5名 メネット 3名
ゲスト 10名
メイクアップ 0名

今月の聖句
「神に従う人は七度倒れても起き上がる。神に逆らう者は災難に遭えばつまずく。」
箴言 24:16

東京目黒クラブ 那須クラブ
10月 Happy Birthday
なし なし

巻 頭 言

副会長 河野 順子

雑感 その1

最近また、「道徳」というカリキュラムが小中学校では行われているそうです。過日、「道徳の時間に話をしてください」と近くの中学校から依頼がありました。私が依頼される内容は、30年前の日航ジャンボ機墜落事故の救護に参加し、その時の惨事がある書物に載ったことに由来します。ここには文字数上披露できないのですが、一瞬にしているのちが奪われたあの事故での当時の私の心情といのちの大切さを話すことにあります。15年前くらいまでは、大よそ近隣市町の中学校にはお邪魔して話済みでしたが、今になって依頼があるとは思いませんでした。当該中学校では、地区自治会の皆さんとこの中学校に入学してくる小学6年生も一緒に話を聞いてくださいました。11、12歳から70歳代の方々では、誰を対象に話をしたらよいのか戸惑いましたが小学生と中学生を対象に「いのち」について話してきました。

ところで従来、保護者と子どもたち一緒に道徳（と称したいのちの話）を聞くことはありましたが、自治会つまり地域の方たちとの合同はありませんでした。何となく、この学校を見守ってくださっている感があり、温もりを感じました。今、国は「地域包括ケアシステム」を各都道府県、自治体に推進していますが、まさにその一環として、暮らしの中で地域の大人が子どもを守り、必要時は子どもが地域の大人（時には高齢者）をケアする前哨ではないかと思いました。昭和の時代は、地域のつながりや近所とのつながりを感じましたが今は希薄化と認めていたのですが、徐々に孫子が話題を共有する仕組みのできているその地域に感心した一コマでした。

雑感 その2

静かな～静かな一里の秋の季節になりました。来る10月10、11日のアジア学院の収穫祭バザーに臨む準備をした一コマです。準備する者は、ワイズメン3人、メネット2人の5名。もちろん平均年齢70余歳。収穫祭にふさわしい野の恵をふんだんに使ったオブジェづくり。イガ付の栗を素手でつかんでしまって「痛い」が聞こえ、香りのよい花梨の青さに感嘆し、松ぼっくりにひげをつけて、目をつけて「ベレー帽もかぶせましょう」と広告紙の赤い部分を切り取って帽子が出来上がり。ほうずきは皮を剥いた方がよいか、ふっくらした赤い皮はそのままがいいか。

ここへ赤い実や青い実、雨に打たれて大きくなれなかったかわいい南瓜を加えて素敵なお秋の恵ができました。童女がモノづくりに目を輝かせている光景がかぶさりました。本来のこどもよりこどもになりきって一生懸命に頭と手とところを動かしている情景を、感性・右脳未発達な私は感心してしていました。黙々と花梨を磨くだけでした。そして、お茶の時間にかわいい小道具による神経衰弱。誰もがなかなかの成績。きっとこのメンバーは、ボケないなと秋の夜長と機会をつくってくださった収穫祭に感謝でした。

9月例会（塩谷キャンプ場下見・懇談会）

日時：9月26日（土）午後3時30分～午後8時30分

場所：塩谷キャンプ場・原田ワイズ宅

参加者：田村会長、河野、原田、村田、荒井。メネット：田村、原田、村田。ゲスト：那須YMC Aリーダー（チャン、やぎ、さぶちゃん、りんりん、みるく、ゼロ、いちご、ジャスミン、ふっか、もうか）10名 合計：18名

那須ワイズ9月例会は、将来の塩谷キャンプ場を考えるため、那須YMC Aリーダー10名を交えてキャンプ場視察と原田メン宅にて懇談会を行いました。まず、塩谷キャンプ場視察では、先日の下草刈りのお陰でスムーズにキャンプ場の中に入ることができました。リーダーたち全員、塩谷キャンプ場に来るのは初めてで、とちぎYMC Aに素敵なキャンプ場があるのだと驚いていました。季節も秋に入り、沢山のトンボが飛んでおり、このキャンプ場で子どもたちとこんなことしたいなと皆想像しながら、キャンプ場を視察しました。震災以降約4年半使用していなかったため、施設の痛みが進んでおり、施設をどのようにしていくかという課題点も浮かんできました。来年度には日帰りのプログラムやリーダートレーニングなどができるよう、準備と検討をしていく必要があるのではないかと感じました。そして、キャンプ場を後にした後、原田メンのご自宅に集合。今回は当日にサタデークラブがあったため、恒例であるリーダーたちのカレーライス頂くことができませんでしたが、田村メネット手作りカレー等それぞれメネットが美味しい食事を持ち寄りながら懇談会を開くことができました。田村会長の挨拶と開会点鐘の後には、その食事を頂きながら、ワイズメンとYMC Aリーダーたちと席を交えながら楽しいひとときを過ごすことが

できました。また、食事中、一人ひとりの自己紹介を行いました。ワイズメン、リーダーたちのYMCA・ワイズとの出会いやYMCA・ワイズにまつわる熱い話を聞くことができました。夕食会の最後には、キャンプ場視察を受けて、これからの塩谷キャンプ場の展望を皆で考えていきました。那須ワイズメンズクラブ、那須YMCAには塩谷キャンプ場というとても素晴らしい施設があり、それをいかに子どもたちやリーダーたち、地域の方々にとって実り多きものにしていくかは私たち次第だということを改めて感じることができました。YMCA・ワイズについて熱く語り合い、意識を高めることができるのはとても有意義ではないかと感じております。

9月役員会報告

日時：9月4日（金）18：30～

場所：ココス西那須野乃木店

出席者：田村会長、村田副会長、荒井担当主事（書記）田村メネット

協議事項

1. 8月例会（DBC東京目黒クラブとの交流・合同例会）の会計決算について

村田副会長より決算報告があり、協議の結果、皆様よりいただいた貴重な残金22,986円は那須クラブの特別会計に入金する。

2. 北東部会出席について

9月5日（土）午後1時より「TKPガーデンシティ仙台勾当台」で開催の部会出席者の確認。村田メンが出席。クラブのアピールは、8月例会の合同例会。9月の塩谷キャンプ場の下見・リーダーとの交流会。10月のアジア学院の収穫感謝祭。11月の植樹例会。

3. 9月例会について

9月26日（土）午後3時30分那須YMCAに集合、車に相乗りをして原田ワイズ宅経由で、4時30分塩谷キャンプ場の下見。その後原田ワイズ宅でリーダーを含めての例会・懇親会。夕食はカレーご飯、ルーは、メネットに協力をお願いする。お米は村田が準備（2升）。今回の企画は、リーダーOBにも声をかけ、リーダー・リーダーOBの参加を期待する。

4. 10月役員会と例会の件

10月2日（金）午後6時30分～、ココス西那須野乃木店。10月例会は、10日（土）・11日（日）の両日アジア学院収穫際に参加。バザーの実施、子供たちの参加しやすいゲーム等リーダーの参加

と共に考える。

5. ブリテンの内容について

10月号の掲載は、西那須野幼稚園、アジア学院で掲載をする。巻頭言は、河野副会長に依頼。

6. その他

那須YMCAとして、11月8日（日）の西那須野幼稚園のバザーに合わせて、国際理解セミナー等の開催を企画する。

第19回北東部会に参加して

副会長 村田 榮

9月5日（土）の午後、仙台において表記の会が開催されました。那須クラブの代表として出席してきました。参加者は、東日本区理事渡辺隆氏をはじめ、60名強の参加でした。バナーセレモニーで始まり、中川部長の開会点鐘・挨拶、渡辺理事の祝辞等のセレモニーがあり、北東各クラブのアピールがあり、各クラブとも会員の高齢化と増強の話が多かったです。その後、2016年6月4日（土）・5日（日）の第19回東日本区長野大会のアピールが長野クラブ会長よりあり、2014年～2015年度北東部表彰が行われ、盛岡クラブが最優秀賞、わが那須クラブが優秀賞をいただきました。ディスカッションは、クラブの活性化と会員増強について横倉北東部書記の名司会のもと約1時間話し合われた。第二部の記念講演は、「心の障がい者への就労支援」についてのお話がNPO法人シャロームの会代表の菊池茂氏よりあった。お話は、ご本人の実践に基づいたお話で大変参考になりました。第三部は、「ベネズエラハーブに親しむ」と題して、ベネズエラハーブと歌の吉澤陽子さんと4弦ギターの本城久志さんの演奏を楽しみました。会食をしながらの渾身のひと時を持った北東部会でした。

旧西那須野（那須西原）の緑と水（30回）

田村修也

この視察によりまして、伊藤内務卿、松方大蔵大輔県勧農局長等は、那須野が原開拓の重要なこと、そのため水路開削の必要なことを深く認識したに相違ありません。このことによって、この後、開墾創業、そして疏水開削のために、有力な要因になったことは疑いないことと思います。これを契機に、印南丈作、そして矢板 武等は政府に対して水路を開削に着手するようにと運動を進めましたが、何分巨額の経費を要するため、政府

はその必要を十分認めながらも手を下すことが出来ないうでいました。このような状況のなかで明治13年を迎えました。印南文作と矢板 武は水路開削について政府が動かないので、焦燥の念にかられていました。そこで、昨年本宮宿において松方正義から勧められたその意見に従って、水路開削のことはとりあえず後にして、一刻も早く開墾事業に着手する方針に方針を定めました。しかしながらその資金は、印南文作、矢板 武二人の力だけでは到底及ばないので、同志を募って、会社組織を作るほか手立てはありませんでした。そこで二人は、先ず塩谷、那須両郡の有志の間を奔走して、入社を勧誘して廻りした。その結果各町村の有力者たちの賛同を得ることが出来ました。

また矢板 武は当時栃木県議会議員であったので、県内の有力者に接する機会が多くあったので、協力を求めたところ、これもまた賛同を得ることが出来ました。殊に開墾会社設立の発起人の中核として、県内外の有力者を得ることが出来ました。その方々を列記しますと以下の通りです。

那須郡芦野町 戸村謙橘、加藤義一

那須郡小砂村 大金 薫

那須郡大田原町 田代荒次郎

上都賀郡久野村 安生順四郎

塩谷郡桜野村 滝沢喜平治

同郡 高根沢村 矢口長右衛門

芳賀郡下籠谷村 野沢泰次郎

東京府 吉田市十郎

同 府 吉田六三郎です。勿論この他に、

印南文作、矢板 武が発起人に加わったことは言うまでもありません。発起人の当時の地位を見ますと、県議会議員は矢板 武、安生順四郎、野沢泰次郎、戸村謙橘、滝沢喜平治の5名で、安生順四郎は議長、野沢泰次郎は副議長でした。私事になりますが、現職時代県議会が始まりますと議場に各部の部課長が勢揃いして、委員会が始まります。委員会室の並ぶ広い廊下の壁には、歴代の議長と副議長の顔写真が掲示されていて、安生さんと野沢さんはそれぞれの筆頭に掲げられていました。また印南文作、矢板 武、安生順四郎、野沢泰次郎、大金 薫、滝沢喜平治はそれぞれ県勧業委員でした。そして、吉田市十郎は大蔵省の書記官という地位にあり、吉田六三郎は吉田市十郎の関係者です。田代荒次郎と加藤義一は調べようもありませんが、大田原と芦野は城下町で奥州街道の宿ですから、他の発起人と肩を並べる程の相当な有力者であったと思われます。このようにして、那須開墾社成立の見込みが立ちましたの

で、明治13年5月1日、那須西原の一部とそれに隣接する塩谷原、合計3千町歩を開墾のために、政府に貸下げを請願し、同年9月17日に許可の指令が下りました。これは官有地拝借ですが、開墾事業が成功すれば払い下げると政府の承認があったのでした。環境が整ったので、直ちに事業に着手し、拝借地の南の端の字居一本木に地を定めて、事務所、従業員宿舎、家畜小屋等の必要な建物を建築して、ここに10月23日開墾の第1鍬を打ち下しました。(以下次号へ)

今後の予定

・10月役員会

日時：10月2日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：10月例会(アジア学院収穫感謝会への参加)の準備等について。

・10月例会(アジア学院収穫感謝祭)

日時：10月10日(土)・11日(日)

午前9時30分より準備

場所：アジア学院

・11月例会(植樹例会)

日時：11月7日(土)午前10時

場所：日光国立公園内の那須町赤松林駐車場

・第2回北東評議会

日時：11月28日(土)

場所：とちぎYMCA・さくらんぼ幼稚園

・11月役員会

日時：11月6日(金)午後6時30分～

場所：ココス西那須野乃木店

内容：10月例会(アジア学院収穫感謝会への参加)の反省と評価について。11月例会(植樹例会)の準備、12月例会(クリスマス礼拝・祝会)等について。

DBC東京目黒クラブとの交流会 に参加して

原田 時近

8月27日、「北区しらかば荘」にて東京目黒クラブと我が那須クラブの合同例会が開催されました。この計画に、私はいつもに増して参加意欲

をかきたてられました。その一つは、目黒クラブとDBCを締結して5ヶ月、早くも再会できること。その二は、那須疎水の湧流に出会えるということでした。元来、先人の那須の治水事業には敬服し、深く知りたいと思っておりました。ここに実現の運びとなったわけです。

日本三大疎水（安積疎水、琵琶湖疎水と並ぶ）の一つと聞き及び、また支流の分水流を見て、豊かな水量にその治水事業の原点を知りたいと常日頃思っておりました。それを今回、目黒・那須両クラブの方々と共に見学出来たわけです。

まず、疎水取り入れ口に行きました。支流の豊かな水量に比べて、その源の水量は少ないように思われました。しかし、それは昔は大量の水源であったが、時代を経て今に至るまでに8回ほど取り入れ口を下げる工事が行われたということでした。その工事跡が昔を偲ぶに十分な遺跡のたたずまいを今に残しています。

次に隧道です。幅広く勢い良く大量の水が原野の緑の中をとんとんと流れています。

そして蛇尾川の川底を横断するサイフォンを見学しました。蛇尾川の地質は浸透性が高く表流水がなくて地下水となっている川で、その川底の下を横切って水を下流へと導かねばなりません。東岸から西岸まで蛇尾川の川底に、大谷石で組んだ水の漏れない隧道を作り、しかもサイフォンの原理を応用した先人のたゆまぬ努力・工夫・挑戦に思いを馳せました。

そして第一分水、第二分水、第三分水、第四分水と流れ、あの那須野が原が肥沃な土地へと潤っていったのです。

昔、拓かれる前、那須野が原は起伏があり、くま笹に覆われた荒野で、誰が現在の様を想像したでしょうか。この大原野に夢を抱き、計り、実行に移した印南丈作、矢板武氏等。

その結果「さすが日本三大疎水の一つ！」と言わしめる那須疎水が今もここに巖としてあります。

人は何に使命を感じ、何に希望を持ち、どのような行動を起こすのか。

「私達は見えるものではなく見えないものにこそ目を留めます。見えるものは一時的であり、見えないものはいつまでも続くからです。」コリントⅡ 4章 18節

目黒クラブの方々、那須クラブの方々有難うございました。田村メン、村田メンを始め関わってくださった皆様、お世話になりました。皆様のご奉仕により楽しい学びとリフレッシュの時間が持て

ました。心から感謝申し上げます。

塩谷キャンプ場下草刈

日時：9月22日(火)午後1時30分～

出席者：田村会長、村田副会長、荒井担当主事、村田メネット。もつちゃん、つくつく、すっちー、ジェル。

26日の9月例会で塩谷キャンプ場の下見をするためには、下草狩りをしておく必要があるとの判断で、急遽シルバーウィーク中に行いました。3台の草払い機を持ち込み、前日にとちぎYMCAの塩澤総主事がツルを刈り込んでくださったところを中心に歩きやすいように下草狩りとつり橋に絡んでいるツルの取り除きを行いました。3時間ほどでしたが、だいぶんきれいに刈り込むことが出来ました。次年度からキャンプ場の活用をするのであれば、今年中にもう一度ツルの刈り込みをしておく必要を感じます。



西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園 西那須野幼稚園

園長 福本光夫

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ(ロバート・フルガム)」

「『助けて』と言える国へ一人と社会をつなぐ(奥田知志・茂木健一郎 集英社新書)」を先月読み終わりました。奥田さんは基督教の牧師で北九州ホームレス支援機構の理事長。茂木さんは言わずと知れた脳科学者です。日本は地域社会が崩壊し、経済的な格差が拡大し、6人に1人の子どもが、1人親家庭の子ども6割が相対的貧困の状態におかれていきます。最近の国際的な研究において、乳幼児期の教育の質や家庭の経済状況が、その子どもの現在と未来に影響することが、根拠

に基づいて報告されているなかで、タイトルにひかれて購入した本です。そこには、奥田さんの子どもの事が書かれていました。以下、長い引用になりますが、奥田さんは他人の相談にはのりませんが、「かくいう私自身、実は『助けて』とはなかなか言えない人間だった。(中略)私の長男は、中学校とほぼ同時に不登校となった。周囲がその理由に気づいた頃には、既に手遅れだった。いじめは、息子をどんどん追い詰めていった。(中略)二年になり、ますます事態は深刻に。息子は生きるか死ぬかというところまで追い詰められていった。本当に死んでしまうのではと心配することが何度も起こる。(中略)二年の夏頃、いよいよ目が離せなくなり、夜は息子の横で寝ることにした。すると今度は私が体調を崩した。秋には三週間入院した。喉頭痙攣と呼ばれるもので、原因不明の呼吸困難に陥る。三週間の入院中、息子はほとんど見舞いに来なかった。寂しかった。最近になって来られなかったのだと知った。それは、路上で出会う青年と話をして気づかされた。かつてのホームレスと違い、彼らは家族のいる世代。だから、当然実家に戻るよう説得する。しかし、彼らの多くがこう答える。『こんな格好じゃ帰れない。これ以上親に迷惑かけたくない』。息子は自分の不登校がきっかけで父親が倒れたと思っていたと思う。だから、父親の病室に来ることを躊躇したのだと今は思う(P247)」。

この後、奥田さんの子どもは、インターネットで調べた沖縄県八重山諸島の鳩間島という人口50人の孤島に転校したいと希望し、両親はそれに賭けた。体験入学の時に島の仲宗根さんの「そりゃ大変だったね。だったら、この島来たらいいさ」のことばに、奥田さんは手をつけて「『助けて下さい』」というのがやっとだった。涙が溢れた。(中略)サンゴ礁の美しい島で彼は生き、今は大学生となった。『この世の中に助けてくれる人はいたんだよ。"助けて"と言えた日が助かった日だったよ』あの親父の言葉は本当だった。(中略)『おまえは親ではないか。(中略)初めて会った赤の他人に息子を押しつける気か。(中略)自己責任論に留まっていたならば息子は死んでいたかもしれない。(中略)子どもたちに観てもらおう。本当にカッコイイ大人とはどんな大人かを。『助けて』と言える大人がどれだけ格好いいかを。『助けて』が新しい社会を形成する(P249)」。

その後、彼は中学を卒業し、島根県にある全寮制キリスト愛真高校に進みました。

さて、安全保障関連法案が憲法違反という議論

となる中、繰り返されてきた抗議活動で注目を集めてきたグループがあります。学生団体「SEALDs(シールズ)」です。その中心的リーダーの1人が奥田愛基(あき)さんです。普通の格好をした明治学院大学4年生です。何度もテレビに登場し、ご存じの方も多いと思います。参院平和安全法制特別委員会の安全保障関連法案に関する中央公聴会の「公述人」として意見を表明しました。その時は、スーツでした。その彼こそが、奥田牧師の中学校時代に不登校で生きるか死ぬかあった子ども本人です。

今の小学1年生が大学を卒業する時には、今はない仕事が65%になるといいます。これからは正解の無い時代です。奥田愛基君のように、これから必要とされているIQ以外の非認知能力である折れない心(レジリエンス)、自己統制力、みんなとやり遂げる力というような善く生きる力を身につけて欲しいです。その基礎が遊びです。地域社会が無くなった今、幼稚園での遊びが更に大切になります。

(西那須野幼稚園「しらゆり」9月17日号より)

アジア学院だより

学校法人アジア学院 校長 荒川 朋子
収穫感謝の日

アジア学院では毎年10月の第2土日を「収穫感謝の日」として祝う。これを感謝祭とか、学校祭とかおっしやる方がいる、厳密にはそうではない。過去に「収穫感謝の日は、万物を造られた神に私たちが受けた大きな恵みを感謝する日であって、単なる祭りではない。」と厳しく言った校長がいた。「収穫感謝の日」は英語では Harvest Thanksgiving Celebration と言い、私たちはこれを略してHTCと呼んでいるが、このThanksgivingには「神への謝恩」「感謝の祈り」といった意味がある。この日は学生たちの国々の歌や踊りや、名物の各国のおいしい料理を楽しむに多くの方々が近くから遠くから来てくださるが、これらは全て「神への謝恩」「感謝の祈り」を形にしたものであって、歌や踊りのためのイベントではないことを覚えていなければならない。まず感謝、まず祈り、そして祭りなのである。それ以来、私は誰かが「収穫感謝祭」と言うと、「感謝の日」とすぐに訂正してしまう。

だからアジア学院の「収穫感謝の日」は両日も礼拝で始まる。バザーでの買い物や食事を目当てにいらしたお客様は、その礼拝が終わるのをじ

とっていただくことになる。普通の祭りや学校祭では、開始時間が9時ならば9時から出店も開いているし、イベントも始まっている。その調子で来られると、何でいつまでも始まらないんだ？と不機嫌になってしまう方もおられる。お客様に迫られて、こっそり販売を始めてしまう出店もあったが、今では販売開始は礼拝後と厳しくさせていただいている。文句がなくなったわけではないが、私はそんな祭りがあってもいいのではないかと思っている。日本の祭りもかつては全て宗教行事で、同じように礼拝や祈りが中心であったはずである。アジア学院のこのスタイルは今や珍しいので、中にはもの珍しそうに礼拝を見ておられる方もいる。訳も分からず、礼拝に参加してしまっている方もいる。目の前にある多くの収穫物も、これから食べるおいしい食事も、これから始まる楽しいイベントや、友との再会、おしゃべり、各国の色とりどりの衣装に包まれた学生たちの出し物も、皆神様の恵み、まずは感謝。皆さんも是非、礼拝からご参加ください！

YMCA 報告

【YMCAユースプログラムにリーダーたちが参加してきました！】

9月の中下旬に開催された、第28回 ユースボランティア・リーダーズフォーラム(9/11~13)、第43回全国学生YMCA 夏期ゼミナール(9/11~14)、第46回全国YMCA リーダー研修会(9/19~22)に5名の那須YMCA で活躍しているリーダーが参加いたしました。

ユースボランティアリーダーズフォーラムでは「今、ユースリーダーに求められていること」をテーマに、東日本のユース約35名が東京YMCA 山中湖センターに集まり、基調講演やプログラムに参加し、子どもたちとの関わり方やグループワークなどについて学びを深めていきました。

全国学生YMCA 夏期ゼミナールでは、「MISSION IMPOSSIBLE?~ステレオタイプからの脱却~」をテーマに全国からの学生約75名が国際青少年センター東山荘に集まり、テーマ講演や聖書研究、グループディスカッションなどを通して、「貧困」と「ジェンダー」2つのキーワードを手掛かりに、私たち誰もが持っているステレオタイプな物の見方、価値観や偏見に気づき、多様性を受け入れられない社会を考えていきました。

全国YMCA リーダー研修会では、「種をまこう~どえりあ花さかせやーよ」をテーマに、全国

からの約100名のリーダーが名古屋YMCA 御岳・日和田高原キャンプ場に集まり、講演やディスカッション、プログラムを通して、YMCA リーダー組織を牽引するひとりとして、子どもたちのリーダーとして意識を高め合いました。



今回参加したリーダーたちが、今回の経験が糧となり、YMCAでのボランティア活動が実り多きものとなりますように願っております。この度は貴重な機会を頂きどうもありがとうございます。

【とちぎYMCA・那須YMCAの10月の予定】

- ・10/3(土) サタデークラブ(ハイキング)
- ・10/10(土) 西那須野幼稚園運動会(年中・長)
- ・10/12(月・祝) 東京YMCA・近隣YMCA 会員ソフトボール大会

※ 約10名の那須YMCA リーダーが参加
 ・10/12(月・祝)~10/13(火) 日本YMCA 同盟国際協力委員会 ※スタッフの荒井が委員のため出席

- ・10/17(土)~18(日) 富士さんぽ
- ・10/18(日) Yキッズ(野外炊飯)
- ・10/24(土) サタデークラブ(馬頭農村塾でお芋掘り)
- ・10/29(木) 公益財団法人、栃木県立入検査
- ・10/31(土) サタデークラブ(馬頭農村塾でお芋掘り)

会計よりのお願い

2015年~2016年度的那須ワイズの会費50,000円を納入ください。東日本区、北東部、とちぎYMCA等の会費の納入。クラブ活動資金のためによりしくお願いいたします。